

STPを実現する汎用システムパッケージ

STP（ストレート・スルー・プロセッシング：全電子処理化）に対する期待が高まっている。その実現には、企業や団体内の処理のSTP化が重要になるが、本稿では、既存システムをリプレースすることなしに、これまでのシステム間をメッセージハブと媒介システムで連動して再構成する、汎用システムパッケージについて述べる。

STP実現のための課題と解決の方向性

企業や団体においてSTP化を進めるためには、既存システムをSTPに対応させる必要がある。しかし、費用対効果の面から見ると、STP化のために既存システムをリプレースするのは得策ではない。そのため、最近では、フロントオフィスシステムやバックオフィスシステムといったレガシーシステム間、さらにレガシーシステムと外部ネットワーク間を、メッセージハブと媒介システムで結びつけて再構成する方法が主流となりつつある。

メッセージハブ／媒介システムの例としては、EAI（企業アプリケーション統合）ツールをミドルウェアとして用いる事例が多い。その利点は、次のとおりである。

- システム間のインターフェースの差異を吸収する機能がある
- データのルーティング管理が容易である
- ソフトウェア価格が安価である

トラस्टィのSTP化に向けての問題点

トラस्टィ（年金資産の管理）において、証券約定処理業務は、未だに労働集約的な手作業で行われている。このため、決済期間の短縮や事務処理の効率化や正確さが阻害され

ている。そこで、その解決策としてSTP化が望まれている。しかし、EAIツールだけでトラस्टィ業務をSTP化することは難しい。その理由は、次のとおりである。

ユーザーインターフェース

EAIツールはデータ交換のためのメッセージのパイプであり、その機能はデータ連携に特化されている。他方、証券約定業務では、勘定系システムへの入力前に売買内容を確認し、運用方法指図書や売買報告書を照合し、データ項目を補記するなどの処理が必須である。そこで、これらを効率的に行うユーザーインターフェースを、交換メッセージごとに新規に開発する必要が発生する。

帳票

EAIツールはシステム間連携中の交換メッセージを帳票として出力する機能がない。本来STPはペーパーレス志向であるが、事務処理の特性上から帳票出力に対する要望が強い。

コード管理

EAIツールは、「オラクル」などのデータベースからコード変換情報を取得するためのアクセス手段を備える。しかし、コード変換情報を管理するデータベーステーブルは、入力・管理用のユーザーインターフェースと併せ

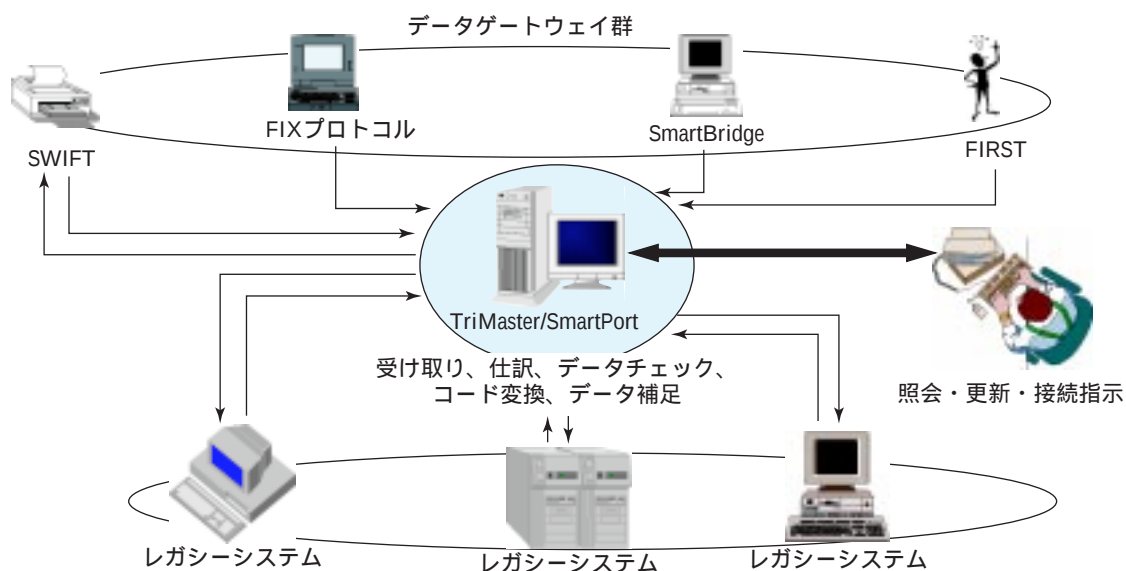


図1 TriMaster/SmartPort概念図

で新規開発が必要となる。

これらの問題点を解決するには、EAIツールの価格を大きく上回るほどの、新たなシステム開発投資が必要になる。

TriMaster/SmartPortの機能

NRI（野村総合研究所）の提供するTriMaster/SmartPortは、EAIツールの機能に加え、ネットワークを飛び交うさまざまなデータを受け渡すツールとして、前述の問題点に幅広く対応する汎用システムパッケージである。特に、トラスティ業務である有価証券の約定照合管理業務に役立つ、次のような特徴を持っている。

汎用メッセージブラウザ

データのレイアウトにかかわらず表示、検索、照合、更新ができ、ルール定義により広

範なメッセージ体系に対応できる。

データエクスポート機能

マイクロソフト社の表計算ソフト「エクセル」にデータをエクスポートできる。

汎用エディター

コード変換情報管理用のテーブルを持ち、入力・管理用の汎用エディターを備える。

トラスティに限らず、STP化のニーズはさまざまな業種、企業、団体内に存在する。最近は、一企業の枠を超えて企業グループ全体でSTP化を考えていく動きもある。今後は、企業再編を意識し、たとえば金融機関と系列投資顧問会社間のデータ交換への適用を図るなど、企業グループ全体でレガシーシステムの再構成を行っていく視点が必要である。

（野村総合研究所 池田拓朗）